

「ふじのくに防災フェロー養成講座」

平成29年度 受講生募集要項

1. 「ふじのくに防災フェロー養成講座」について	1
1. 1 ふじのくに防災フェロー養成講座の目的	1
1. 2 応募資格	1
1. 3 募集人員	2
1. 4 出願期間	2
1. 5 出願書類提出先	2
1. 6 出願書類	2
1. 7 選考方法	2
1. 8 二次選考の試験日時・試験場所	3
1. 9 検定料, 入学料及び講習料	3
1. 10 問い合わせ先	3
2. 養成講座実施スケジュール	4
3. カリキュラム	5
3. 1 講師陣	5
3. 2 講義・実習科目	6
3. 3 地域防災セミナー	6
3. 4 修了研修	6
3. 5 修了判定	7
4. 開講スケジュール及びシラバス	8
4. 1 講義・実習科目開講スケジュール	8
4. 2 講義・実習科目シラバス	9
4. 3 修了研修シラバス	19
5. 受講志願書の記入方法	27
【記入例】	29
平成29年度 受講志願書	30

1. 「ふじのくに防災フェロー養成講座」について

静岡大学防災総合センターでは、静岡県と連携して、「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」事業を平成 22 年度から実施しています。本事業の目的と受講生の募集は下記のとおりですので、積極的なご応募をお待ちしております。

1. 1 ふじのくに防災フェロー養成講座の目的

自治体や企業等で災害に関する実務に従事している方を主な対象に、災害発生後の「危機管理ノウハウ」にとどまらず、災害の事前予防を目指し、地域の災害特性を理解し、災害に関わる科学的情報を読み解ける、実践的応用力を身につけた人材を育成することを目標とする。

具体的には、i)最新の災害科学基礎知識(地震、豪雨などの自然科学的知識にとどまらず、災害時の人間行動など人文社会科学的知識も含む)修得を目的とする講義、ii)災害科学に関わる現地踏査、文献、データ収集、観測などを通じて得られた各種データの読解・処理作業などを行う実習・演習、iii)担当教員の個別指導によるセミナーを通じ、災害科学的基礎を背景とした実践的応用力を養う。受講者には、最終的に自らの課題をとりまとめ、学会など外部での発表を義務づける。

講義・実習、とりまとめた課題の発表などが達成された段階で、静岡県より「ふじのくに防災フェロー」の称号(知事認証)が付与される。

1. 2 応募資格

下記(1)及び(2)の要件の双方を満たすこと。個々の応募者が要件を満たしているか否かについては、ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会¹が判定する。

(1) 次の資格等のうちいずれかを有する者

- ・「静岡県防災士」(平成 22 年度からは「ふじのくに防災士」)の称号を有する者
- ・日本防災士機構による「防災士」の称号を有する者
- ・その他、防災、災害対応、防災教育に関わる資格を有する者
- ・防災関連の学部・学科を卒業又は防災関連の大学院修士課程以上を修了若しくは在学中の者
- ・その他ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が適当と認める者

(2) 行政機関、企業、学校等において、防災に関わる業務に従事している者

・例えば、市町村や県の防災関連部局(危機管理系部局のほか土木・教育・福祉なども含む。)の職員、企業の防災担当者、防災報道に携わっている者、ライフライン系企業や防災関連コンサルタント企業等の社員、学校で防災教育に携わっている教職員など。

¹ ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会は、本講座の実施・運営に関する事項を取り決める委員会。防災総合センター長を委員長とし、学内外の委員で構成される。

・「業務に従事」とは、その仕事に従事することにより、何らかの報酬を得ている者を指す。
例えば、地域の自主防災組織への関与は「業務」とは見なさない。

・現在防災関連の業務に従事している者のほか、行政機関職員等で今後防災関係部署に配属される可能性のある者や、防災関連の大学院に在学中の大学院生など、今後防災関連の業務に従事する予定がある者も対象とする。

また、最低限必要な能力として、以下がある。

・自力で、電子メールでの日常的なコミュニケーションがとれること。選考過程、講座実施中の諸連絡や個別指導の際の通信手段は、すべて電子メールが用いられる。

・ノートパソコンを所持し自力で使用できること。無線 LAN 接続が自力でできること。

1. 3 募集人員

10名程度

1. 4 出願期間

平成29年1月16日(月)～平成29年1月30日(月)

※出願書類は1月30日(月)必着のこと。

1. 5 出願書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学防災総合センター

※封筒に「ふじのくに防災フェロー養成講座志願書在中」と記載のこと。

1. 6 出願書類

①受講志願書

②防災に関係すると思われる免許、資格に関する証明書等のコピー

※出願書類は返却しません。

1. 7 選考方法

(1) 一次選考(書類審査)

受講志願書の内容をもとに、まず応募資格を満たしているか検討する。その上で、志願者が取り組みたいと考えているテーマの指導可能性について検討する。

選考結果は、平成29年2月中旬に本人宛に通知する。

(2) 二次選考(面接・口頭試問)

一次選考の結果、本講座への受入れ可能性があるかと判定された志願者に対して、面接及び口頭試問を行う。受講志願書と面接・口頭試問の結果により、ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が総合的に判定する。

選考結果は、平成29年3月上旬に本人宛に通知する。

1. 8 二次選考の試験日時・試験場所

試験日時：平成29年2月26日（日）

試験場所：静岡市駿河区大谷 836 静岡大学 静岡キャンパス内

留意事項：・二次選考対象者に対してのみ実施する。実施の有無や場所は、平成29年2月中旬に本人宛に通知する。

- ・対象者多数の場合は、別途予備日を設ける場合がある。
- ・二次選考に先立ち、対象者に対して志願内容に関する問合せを行う場合がある。

1. 9 検定料、入学料及び講習料

・本講座への応募、一次選考及び二次選考の検定料及び入学料については徴収しない。

・講習料は、120,000円とする。

講習料は、二次選考を通過し、本講座への受入が決定した後に納入するものとする。

講習料は、1期の受講につき1回の徴収とする。仮に受講期間が2年に及んだ場合でも、改めて徴収することはない。

・静岡県職員については、事業費の一部を静岡県が負担しているため講習料を免除する。ただし免除の対象は、勤務先の了解のもとで職務としての受講が認められるケースに限るものとする。

・静岡県内市町の職員については、静岡県市町村振興協会の助成制度(全額補助)の適用対象者となることのできる。ただし免除の対象は、勤務先の了解のもとで職務として受講が認められるケースに限るものとする。

1. 10 問い合わせ先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学防災総合センター

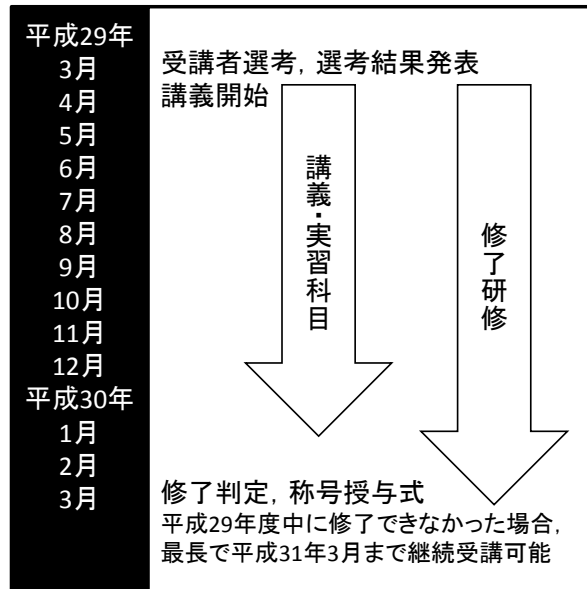
TEL:054-238-4254 FAX:054-238-4911

E-mail: sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

ホームページ <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/fellow/>

2. 養成講座実施スケジュール

平成29年度(第七期)



- ・ 講義・実習は、原則として土曜の9時半～18時の間に開講される。
- ・ 修了研修は随時実施される。
- ・ 研究テーマによっては、平成30年度まで何らかの作業や指導が継続される場合がある。
- ・ 講義・実習科目及び修了研修の受講期間は、最大2年間(平成30年度末まで)とする。
- ・ 当該年度内に講義・実習科目を10科目以上履修認定され、翌年度引き続き修了研修を受講している受講生は、翌年度の講義・実習科目を受講することはできない。ただし、地域防災セミナーについては制限無く出席できる。
- ・ 修了生は、原則として修了後に開講される講義・実習科目を受講することはできないが、修了後に別途案内する「科目受講制度」により、一定の条件を満たせば、1年度あたり3科目まで受講が可能である。また、地域防災セミナーについては制限無く出席できる。

3. カリキュラム

3. 1 講師陣

氏名	本務校	専門分野	担当内容
生田領野	静岡大学	測地学, 地震学	B
岩崎一孝	静岡大学	気候学, 自然地理学, 地理情報システム	A, B
岩田孝仁	静岡大学	防災政策, 防災行政学	A
鶴川元雄	日本大学	火山学, 地球物理学, 地震学	A
牛山素行	静岡大学	自然災害科学, 災害情報学, 豪雨災害	A, B
笠原順三	東京大学*	地震学, 地震探査, 地球物理学, 地球科学全般他	A
風間 聡	東北大学	水文学, 河川工学, 水資源学	A
片田敏孝	群馬大学	災害社会工学	A**
狩野謙一	静岡大学*	地質学, 地質図学, 地質調査法	A
北村晃寿	静岡大学	津波堆積物, 古地震の研究	B
木村浩之	静岡大学	地球微生物学	B
小杉素子	静岡大学	社会心理学, リスクコミュニケーション	B
小林朋子	静岡大学	学校心理学, 学校臨床心理学	B
小山真人	静岡大学	火山学, 地質学, 地震・火山防災, 災害リスク評価	A, B
近藤昭彦	千葉大学	地理学, 水文学	A
佐藤 健	東北大学	建築構造工学, 地震工学, 自然災害科学, 安全教育学	A
鈴木清史	日赤九州看護大***	文化人類学	A
武村雅之	名古屋大学	地震学	A
土屋 智	静岡大学	山地水文学, 土砂移動学	B
中川和之	時事通信	災害報道, 市民防災, 災害救援	A
野津憲治	東京大学*	地震化学, 火山化学	A
橋本 岳	静岡大学	画像計測工学, 災害予兆検知	B
秦 康範	山梨大学	災害軽減工学	A
林 拙郎	三重大学*	土砂災害, 斜面災害, 豪雨災害, 地震災害	A
林 能成	関西大学	地震学, 地震防災	A
原田賢治	静岡大学	津波工学, 津波防災, 海岸工学, 水工学	A, B
廣井 悠	東京大学	都市防災, 都市工学	A
藤井基貴	静岡大学	防災教育	B
前田恭伸	静岡大学	リスクアナリシス	B
牧原康隆	****	防災気象, レーダー気象	A
増澤武弘	静岡大学*	植物生態学, 植生学, 環境科学	B
増田俊明	静岡大学	地球科学, 構造岩石学	B
村越 真	静岡大学	リスク認知, 防災教育	A
矢守克也	京都大学	防災心理学, 社会心理学, 災害社会学, 防災教育学	A

担当内容 A: 講義・実習, B: 修了研修

*: 名誉教授 ** : 地域防災セミナーのみ担当 ***: 日本赤十字九州国際看護大学

****: 気象業務支援センター

・担当内容が A「講義・実習」のみの教員は, B「修了研修」は担当しないので, 修了研修の指導を希望することはできない。

3. 2 講義・実習科目

(1)実施方法

- ・講義・実習科目は、原則として静岡大学防災総合センター内のセミナー室にて行われる。一部科目では、野外など学外での現地踏査などが行われる場合がある。
- ・開講スケジュールは別表のとおりである。この表に挙げられた科目のうち、10科目以上を履修すること。
- ・講義・実習はいずれも課題提出が求められる。開講当日に出席した上で、提出課題の内容が合格水準であると認められた場合に、当該科目の履修が認定される。
- ・講義内容と資料を、受講生がインターネット経由で視聴できるシステムを用意している。開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由での受講と課題提出を元に履修認定の対象として認める。ただし、実習などでネット経由での受講形態が適さない科目では、ネット受講を認めない場合がある。

(2)講義実習の内容に関する留意点

- ・講義実習は、講演会のように講師の話を聞いていれば良いという形式のものではない。計算、作図など、数値や物理的・質的データを用いた作業を必ず伴う。
- ・講義実習の中で、高校程度の数学、物理等の基礎知識が必要となる場合がある。
- ・災害発生時の対応についてのテクニック、ノウハウといった内容はほぼ皆無である。防災に関わる自然科学、社会科学的な基礎知識が主な内容となる。
- ・受講中にノートパソコンの利用が必要となる場合がある。パソコンは各自用意すること。
- ・学内無線 LAN への接続が必要となる場合がある。無線 LAN への接続は自力で行うこと。

3. 3 地域防災セミナー

地域防災セミナーは本養成講座の受講生、関係する教員や学生による話題提供や研究発表を中心としたゼミである。不定期に開催される予定。受講生は、受講期間中に少なくとも1回の出席を義務づける。

なお下記の地域防災セミナーについてはすでに開催日・内容が決定している。

期日：平成 29 年 5 月 20 日(土)

話題提供者：片田敏孝(静岡大学客員教授・群馬大学教授)

内容：「災害社会工学特別講義」

3. 4 修了研修

修了研修は、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決め、そのテーマに関する調査研究を行い、結果をまとめるものである。とりまとめた結果は、学会等の専門的な研究発表の場で発表することを義務づける。修了研修は、担当教員

と受講生との個別指導形式で行われるので、実施期日や回数などは受講生によって異なる。修了研修の担当教員及び指導可能なテーマについては、シラバスを参照すること。

各受講生につき担当教員は、受講決定後関係教員と受講生の打ち合わせを経て最終的に決定される。

受講出願時には、希望する修了研修のテーマを記入してもらうが、希望したテーマがそのまま採用されるとは限らない。希望テーマの学術研究としての妥当性を考え、議論すること自体も本研修の一部であり、最終的なテーマは受講生と担当教員とのディスカッションの上で決定される。

3. 5 修了判定

・講義実習科目を10科目以上履修し、修了研修の内容を学会等の専門的な研究発表の場で発表した者を、修了判定の対象者とする。

・講義実習科目の履修状況、修了研修担当教員からの報告をもとに、ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が各受講生の修了判定を行う。

・講義・実習科目及び修了研修の受講期間は、最大2年間(平成30年度末まで)とする。

・当該年度内に講義・実習科目を10科目以上履修認定され、翌年度引き続き修了研修を受講している受講生は、翌年度の講義・実習科目を受講することはできない。ただし、地域防災セミナーについては制限無く出席できる。

・修了生は、原則として修了後に開講される講義・実習科目を受講することはできないが、修了後に別途案内する「科目受講制度」により、一定の条件を満たせば、1年度あたり3科目まで受講が可能である。また、地域防災セミナーについては制限無く出席できる。

4. 開講スケジュール及びシラバス

4. 1 講義・実習科目開講スケジュール(平成29年度)

科目名	担当者	開講日(すべて土曜日)
自然災害科学概論*	牛山素行	2017/4/1
統計法*	村越 真	2017/4/15
治山砂防工学	林 拙郎	2017/4/29
災害社会学	矢守克也	2017/5/6
気候学(浜松開催)**	岩崎一孝	2017/5/27
火山学	小山真人・鶴川元雄	2017/6/10
リスク論	鈴木清史	2017/6/24
津波工学	原田賢治	2017/7/8
建築防災学	佐藤 健	2017/7/22
地震学	笠原順三	2017/8/5
地震工学	秦 康範	2017/8/19
地理学演習	近藤昭彦	2017/9/2
地球化学	野津憲治	2017/9/16
都市防災概論	廣井 悠	2017/9/30
地質学演習*	狩野謙一	2017/10/14
防災気象学	牧原康隆	2017/10/28
地震計測実習*	林 能成	2017/11/11
地域調査演習*	牛山素行	2017/11/25
強震動・地震災害史	武村雅之	2017/12/9
河川工学	風間 聡	2017/12/23
防災法制度	中川和之	2018/1/6
防災実務実習*	岩田孝仁	(仮予定)2018/1/17(水)

- ・上記科目のうち、10科目以上を履修すること。
- ・「*」の科目は、教室や野外での作業を主な内容としているため、ネット経由での受講を認めない。
- ・「**」の科目は、浜松キャンパスで開講する予定。ネット経由での受講を認めない。
- ・都合により日程が変更される場合がある。
- ・開講当日に受講者が0人だった場合は休講とする。この場合、ネット受講のみを実施することはない。

4. 2 講義・実習科目シラバス(平成29年度)

科目名：自然災害科学概論(2017/04/01)

担当教員名：牛山 素行

専門分野：自然災害科学, 災害情報学, 豪雨災害

授業内容：

本講座の導入科目として、ガイダンス的内容の講義を行った上で、自然災害の基本的な構造、災害科学に関する重要なキーワードに関して概論的に論ずる。主な内容は以下の通り。

- ・ふじのくに防災フェロー養成講座が指すもの
- ・受講者の自己紹介
- ・自然災害の基礎構造
- ・「避難」の考え方
- ・災害に関わる「データ」を読む

受講要件：特になし。

科目名：統計法(2017/04/15)

担当教員名：村越 真

専門分野：リスク認知, 防災教育,

授業内容：

科学的な探求に欠かせない統計学の基礎的な考え方を学ぶとともに、質問紙の作成の基礎から、収集したデータ処理の初歩を扱う。

受講要件：エクセルの基本操作が可能で、MS-Officeを入れたPCを持参できること

科目名：治山砂防工学(2017/04/29)

担当教員名：林 拙郎

専門分野：土砂災害, 斜面災害, 豪雨災害, 地震災害

自然荒廃, 自然災害の発生形態を, その主要因, 豪雨・地震・火山によって, いかに荒廃や土砂災害が発生するかを斜面崩壊のメカニズムや斜面水文学の視点から解説する。

授業内容：

1. 自然環境の荒廃形態：自然荒廃の特徴, 各種の荒廃形態(火山の影響・煙害地・山崩れ・地すべり等)の概要
2. 山地災害と自然災害：地震性崩壊, 崩壊発生メカニズム, くさび形・折線状・円弧状等の崩壊, 崩壊物質の移動到達距離
3. 豪雨と土砂災害：降雨特性と豪雨災害, 降雨強度, 日雨量の超過確率, 日雨量と崩壊面積率, 豪雨指数, 降雨-浸透-流出過程, タンクモデル
4. 土石流と溪流保全構造物：土石流の特徴・発生形態・発生条件, 荒廃流域の形態区分

と土砂流出，溪流保全と保全構造物

5. 豪雨災害の予測：タンクモデルによる災害発生予測，実効雨量法，土壌雨量指数，累積雨量と土砂災害の発生・非発生，大規模崩壊の発生予測

受講要件：「保全砂防学入門(電気書院)」を使用するので，図書館等で準備願います。

科目名：災害社会学（2017/05/6）

担当教員名：矢守 克也

専門分野：防災心理学，社会心理学，災害社会学，防災教育学

授業内容：

人間・社会科学の立場から防災・減災研究と実践について概説する。特に，地域防災力の向上や学校等における防災教育について，実際の手法に関する実習も交えながら詳しく論じる。主な内容は以下の通り。

- ・防災・減災に関する人間・社会科学的研究の基本的立場の解説
- ・「地域防災力」，「自助・共助・公助」といった基本用語に関する検討
- ・防災教育や避難訓練に関連する手法やツールの紹介と実習
- ・災害情報に関する基礎概念（正常化の偏見，オオカミ少年効果など）に関する検討

受講要件：特になし。

科目名：気候学（2017/05/27）

担当教員名：岩崎 一孝

専門分野：気候学，自然地理学，地理情報システム

授業内容：

この授業は，浜松キャンパスで開講します。

日本の気候の特徴を，世界的視野から解説するとともに，気象データ解析の基礎について，講義と実習を行う。

- ・世界の風系（大気大循環，気団，前線）
- ・日本の気候の特徴（特にマクロスケールからの視点を中心として）
- ・気象データの入手（日本のデータ，世界のデータ）
- ・気象データ解析の基礎
- ・気象データ解析実習（気象庁のデータを使って）

受講要件：学内の無線 LAN に接続することができ，MS-Office をインストールしたノートパソコンを持参できること。

科目名：火山学（2017/06/10）

担当教員名：小山 真人・鶴川 元雄

専門分野：火山学，地質学，地球物理学，火山防災

授業内容：

火山学の最近のめざましい発展は、過去の噴火の推移・様相を解き明かすとともに、現在活動する火山の内部構造・内部過程を探り、将来の活動をある程度予測することを可能とした。この講義では、とくに静岡県の活火山である富士山と伊豆東部火山群を題材として、現代火山学の最新の知見を豊富なスライド・ビデオ資料を利用して学ぶと共に、火山防災の基礎知識をも身につけることを目的とする。主な内容は以下の通り：噴火の分類・特徴とメカニズム、噴火にともなう現象と噴出物、日本の火山防災の現状と課題、火山の観測、火山の物理過程、噴火予知。なお、授業の最後に総まとめとして簡易型の噴火危機対応シナリオ演習を実施する予定。

受講要件：特になし

科目名：リスク論（2017/06/24）

担当教員名：鈴木 清史

専門分野：文化人類学

授業内容：

本授業では、文化人類学の視点から災害やリスクを取り上げます。人びとがリスクをどのようにとらえているのか、防災のあり方をどう認識し、どのように対応してきたのか、また被災経験の対処などについて事例を通して紹介し、考えていく予定です。これらを通して災害に強い個人、生活、共同体とはどのようなものかを考えるきっかけとしたい。

以下のようなテーマを取り上げる予定。

- 1) リスク・災害(対するものとして、安心・安全)
- 2) 災害の可能性やリスクをどう認識し、伝えているのか。
- 3) 被災経験の語り
- 4) 自助・共助そして改めてリスクとは
- 5) まとめ

受講要件：とくにありません。本演習は文化・社会科学系の領域になることをあらかじめご承知おきます。

科目名：津波工学（2017/07/8）

担当教員名：原田 賢治

専門分野：津波工学，津波防災，海岸工学，水工学

授業内容：

災害対策を担う人材の基本的要件として災害に関する科学的基礎知識の理解・修得は不可欠である。本講義では、津波災害を対象としてその発生メカニズムや災害としての特徴、津波防災対策について科学的基礎知識を基に理解する事を目的とする。主な内容としては、以下の様な内容を予定している。

- ・物理現象としての津波
- ・津波による災害の特徴

・津波防災対策の科学技術政策の概説

受講要件：必修ではないが，地震学も合わせて受講することを推奨する。

科目名：建築防災学（2017/07/22）

担当教員名：佐藤 健

専門分野：建築構造工学，地震工学，自然災害科学，安全教育学

授業内容：

地震の揺れと建物の被害との関係について，構造部材，非構造部材，室内空間などに着目し，耐震基準の変遷と対応させながら概論的に論ずる．東日本大震災の学校施設を中心とした被災状況とその教訓についても論じる．受講者とのディスカッション，時間内演習課題にも取り組む．主な内容は以下の通り．

- ・建物の耐震基準と地震被害
- ・非構造部材・室内空間の地震被害
- ・教育施設・医療施設の地震・津波被害と事業継続
- ・地震リスク低減に向けた自主防災活動
- ・持続可能な地域づくりのためのセーフティ・プロモーション

受講要件：特になし

科目名：地震学（2017/08/5）

担当教員名：笠原 順三

専門分野：地震学，地震探査，地球物理学，地球科学全般，能動的災害監視法，資源探査

授業内容：

I. 流体と地震発生

- ・沈み込むプレートが地下へ運ばれる水
- ・地震発生における流体の役割：粘土と水が果たす役割
- ・ゆっくり地震と西南日本の深部微動帯

II. いろいろな地震と断層運動，活断層

- ・プレート間地震，プレート内地震，浅発地震，深発地震，スラブ内地震，首都圏直下地震
- ・断層運動と震源メカニズム
- ・活断層と巨大地震の関係
- ・旧来の地震の分類：前震，本震，余震，群発地震，
- ・地震波をだす現象は？
- ・変動時間の長さとの地下の変形：地殻変動～ゆっくり地震～巨大地震～破壊現象（アコースティックエミッション）

III. 地震波のいろいろと伝わり方

- ・いろいろな地震波：P波，S波，表面波，T相
- ・地下構造と地震波の伝わり方

- ・地盤と地震のゆれ

IV. 地震発生の監視への挑戦

- ・地震とは：ガラス窓とボール，破壊現象，摩擦現象
- ・予知の可能性は？
- ・受動型地震発生監視：震源，歪み，傾斜，ラドン，動物など
- ・動型地震発生監視：最も先端的な4次元監視(タイムラプス法)
- ・タイムラプス法の災害科学への応用(落盤，陥没など)
- ・タイムラプス法の資源探査への応用(非在来型資源探査：シェールガス，石油，天然ガスなど)

V. 熊本地震，南海トラフの地震活動と中央構造線・糸魚川静岡構造線など

- ・日本全体の地震活動
- ・熊本地震はどんな活動だったか
- ・南海トラフの地震活動の今後

VI. その他の現象

- ・火山噴火と地震活動の関係と火山監視データ
- ・地殻変動と地震活動

VII. 課題

受講要件：特になし。

科目名：地震工学 (2017/08/19)

担当教員名：秦 康範

専門分野：災害軽減工学

授業内容：

本講義では，地表面の揺れの強さはどのような要因によって決定されるのか，建物の揺れ方はどのように決定されるのか，過去の地震被害と災害の進化，地震被害想定的手法とその精度，について学ぶ。演習では，①建物の揺れ方について小型振動台を用いた振動実験で建物の揺れ方を確認する，②簡易型地震被害想定システムを用いて様々な地震を想定した被害を予測してみる，ことを実施する。主な内容としては以下を予定している。

- ・地震動の伝播と増幅（震源効果・伝播効果・サイト効果，表層地盤の固有周期）など地震工学の基礎
- ・建物の揺れ方（地震動の周期特性と建物の揺れやすさの周期特性，運動方程式）と対策
- ・地震による社会基盤施設の被害，二次被害（ライフライン，道路など）
- ・地震被害想定

受講要件：Windows ノートパソコンを持参する。

科目名：地理学演習 (2017/09/2)

担当教員名：近藤 昭彦

専門分野：地理学，水文学

授業内容：

災害(ディザスター)は人と自然の関わりが希薄になった時および場所で発生しやすい。自然現象でもある豪雨や地震などのハザードをディザスターにしないためには、素因となる地域の自然、特に地形の成り立ちを良く理解しておく必要がある。そこで、この演習では地形学および水文学の成果に基づき、地表面の形態的特徴から、それを作ったプロセスの理解を試みる。そのプロセスは自然現象であるが、人が関われば災害になるからである。河川地形、海岸地形、山地地形(地すべり、崩壊、土石流)、および人工地形を対象として、その成り立ち、性質および人の暮らしとの関わりについて事例を通して解説する。演習の際には、空中写真および地形図の簡単な判読を併用して理解を深める。

受講要件：画像判読のためにラップトップ PC を持参してください。

科目名：地球化学 (2017/09/16)

担当教員名：野津 憲治

専門分野：地震化学，火山化学

授業内容：

地球化学は元素や化学種、同位体の挙動から地球で起きる現象を理解する学問分野で、地震活動や火山活動に伴う地下水や火山ガスなどの化学変化は地球化学の手法で研究が行われてきた。これまでに地震や噴火の前兆現象として捉えられる事例も蓄積し、地震活動や噴火活動の監視のための化学的な観測データは防災減災にも生かされている。本講義では地震現象や火山噴火現象を化学的な側面から学び、地球化学的な観察や観測が地震予知や火山噴火予知にどのように貢献できるかを考えていく。事例としては、静岡県で大きな災害が懸念される地震や火山噴火をできるだけ取り上げ、静岡県の防災に役立つように配慮する。ただし、講義の直前に甚大な地震災害や火山噴火災害が起きた時には、それらも事例として取り上げる。

講義では以下の内容をカバーする。

- 1) 地震や火山噴火の前兆現象の事例とそれらの評価
- 2) 地震活動監視のための地下水の地球化学的観測
- 3) 活断層の活動評価と地球化学的観測
- 4) 火山活動、とくに噴火現象の地球化学
- 5) 火山ガスの地球化学的観測と火山活動予測、噴火予知

受講要件：特になし

科目名：都市防災概論（2017/09/30）

担当教員名：廣井 悠

専門分野：都市防災，都市工学

授業内容：

都市の安全・安心に関するこれまでの取り組みについて明暦の大火から過去の教訓を学ぶ。その後，東日本大震災以降の都市防災・防災まちづくり分野の課題を踏まえて，特に市街地火災や避難に注目して都市工学的アプローチによる分析事例を説明し，具体データに基づいた演習を行う。主な内容としては以下を予定している。

- ・都市防災・防災まちづくりの定義，歴史，問題点の説明
- ・都市と避難
- ・市街地火災の概要と出火・延焼マップづくりもしくは火災データの分析（演習）

受講要件：MS-Office および Excel をインストールしたノートパソコンを持参することが望ましい。

科目名：地質学演習（2017/10/14）

担当教員名：狩野 謙一

専門分野：地質学，地質図学，地質調査法

授業内容：

地質学の社会的役割，日本列島の地質・地形の特性を述べるとともに，地域の地盤についての基礎的情報源であり防災とも密接に関連している地質図について，その基礎，原理，作成法，利用法などについて学ぶ。主な内容は以下のとおり。

- ・地質学の基礎と地質図
- ・日本列島の地質・地形の特徴と自然災害
- ・地質図とは何か（その基礎，原理，実例）
- ・地質図の作成法（地質調査と地質図学の基礎）：大学構内での簡単な野外実習を含む
- ・各種地質図とその利用（特に防災・自然環境との関係）

受講要件：大学で地質図学・地質調査法を学んだ経験のある方々にとっては簡単な内容である。できれば，地質学を専門的に学んだことのない関連分野の方々の受講を望む。定規（長さ 20cm 程度），三角定規，分度器，鉛筆（ボールペン不可），消しゴムを持参すること。

科目名：防災気象学（2017/10/28）

担当教員名：牧原 康隆

専門分野：防災気象，レーダー気象

授業内容：

気象庁予報部における経験と技術に関する知見に基づいて，気象災害に関わる気象情報の仕組み，精度，利用方法など，以下の項目について解説する。

- ・気象災害(洪水害, 浸水害, 風害, 落雷害)をもたらす気象現象(集中豪雨, 竜巻, 高潮)の解説とその予測精度
- ・気象災害に関わる特別警報・警報・注意報・気象情報の体系と概要
- ・大雨と洪水の警報・注意報の基準設定方法
- ・警報発表から災害発生までの猶予時間と気象情報の利用方法
- ・台風情報の概要と利用方法

受講要件：なし

科目名：地震計測実習 (2017/11/11)

担当教員名：林 能成

専門分野：地震学, 地震防災

授業内容：

地震による揺れは地表面付近の地盤の違いに大きく左右されるため、被害が特定の狭い地域に集中する場合がある。静岡県下では1944年東南海地震の際に袋井の大田川流域と菊川の菊川流域に被害が集中したのが代表例である。また1854年安政東海地震の際に清水の江尻地区の被害が周囲の集落にくらべて極端に大きかったのも、浅部地盤の構造によって地震動が大きく増幅されたためと考えられている。

この演習では静岡大学周辺をフィールドとして平常時の微弱なゆれ（常時微動）の計測を数班にわかれて行い、その後のパソコンを使ったデータ解析を通じて地盤による振動特性の違いを学ぶ。具体的にはH/V法によって固有周期と地盤増幅率を求める。

受講要件：屋外での地震観測を実施するので、歩きやすい靴や服が必須。開講時期にもよりますが、水分補給や紫外線対策も準備してきてください。解析は専用の解析ソフトをインストールして行います。WindowsのPCを持参してください。

科目名：地域調査演習 (2017/11/25)

担当教員名：牛山 素行

専門分野：自然災害科学, 災害情報学, 豪雨災害

授業内容：

地域の災害に関わる調査研究や、住民参加型防災ワークショップの企画などに際しては、対象地域の自然・社会的な性質を把握することがまず重要である。この演習では、全国的に整備されている情報を活用して、特定地域の災害・防災に関わる「地域の概要」（簡単な地誌）を作成する方法を学ぶ。主な内容としては以下を予定している。

- ・対象地域の概要・社会条件についての調査(略図の作成, 地域略史, 人口概要)
- ・対象地域の自然条件についての調査(地形, 気象, 河川)
- ・対象地域の自然災害に関する調査(過去の災害記録, ハザードマップ的情報, 被害想定)
- ・現地での調査(地形図の活用と注意事項, 現地踏査)

受講要件：テキストとして、「防災に役立つ地域の調べ方講座」（牛山素行著, 古今書院刊,

税別¥2200)を指定するので、同書を購入することが望ましい。

科目名：強震動・地震災害史 (2017/12/9)

担当教員名：武村 雅之

専門分野：地震学

授業内容：

2011年3月11日の東日本大震災を受けて、地震災害史の重要性が指摘されている。東日本大震災と関東大震災を通じて、災害史の立場から、津波想定に何が欠けていたかと我が国の地震防災の出発点で何があったかを解説する。さらに後者に関して我が国の耐震設計における地震外力の歴史について解説する。強震動予測がある程度出来るようになった現在でもその設定の悩みは尽きない。その上で単に科学技術を信奉するだけでは解決できない地震防災の課題を議論したい。主な内容は以下の通り

第1部 災害史から学ぶ

その1 2011 東日本大震災：津波想定に欠けていたものは何か？

その2 1923 関東大震災：あの時の教訓の上に今がある

第2部 強震動と地震荷重

その1 強震動理解の基礎：震度とマグニチュードの意味

その2 地震荷重の考え方と歴史

課題は、「郷土に残る災害の跡探し」レポート

受講要件：武村著『地震と防災』中公新書(2008)(定価760円)を読むことが望ましい。

科目名：河川工学 (2017/12/23)

担当教員名：風間 聡

専門分野：水文学，河川工学，水資源学

授業内容：

洪水対策(治水)の概要を学ぶため、洪水の発生機構、問題点、治水の基本的な取り組みや歴史を学ぶ。主な内容は以下の通り。

- ・水循環と水文過程
- ・降雨－流出過程とモデリング
- ・河川構造物、堤防、護岸、水制
- ・治水の歴史と環境問題
- ・リターンピリオド

受講要件：身近な川をじっくりと見ておくこと。

科目名：防災法制度 (2018/1/6)

担当教員名：中川 和之

専門分野：災害情報，市民防災，災害救援

授業内容：

- ・これまで学んだことを実践に活かすための道具として、災害関連法や防災の計画を学び自らの業務に反映させる。まず、災害被害の軽減や未然防止、災害時の対応の根拠となる災害対策基本法の改正を中心に、広島の土砂災害を受けた土砂災害防止法改正、御嶽山噴火災害後の活火山対策措置法改正など、近年の改正の経緯を解説。改正災対法で加わった地区防災計画などについてもその意味を理解する。
- ・実際の災害対応を行った自治体職員の経験から、法と現実の狭間で何をなすべきかの姿勢を学ぶ。また、災害時の相互応援のあり方を考え、熊本地震の経験などを踏まえて、行政・企業の、支援計画、受援計画の重要性を理解する。
- ・静岡県や他の自治体が、様々な災害をきっかけに地域防災計画をどのように見直したか、具体的な事例を実践者から聞く。自らの地域の防災計画やマニュアルが、どうなっているのかを分析した上で、それらの計画をどう見直す必要があるのかを検討する。
- ・そのために、事前課題として、受講生が関係する市町村の地域防災計画を、他の講座で学んだ科学的思考を活かし、自らの身に引きつけて読み込んで課題を発見。講座では、自らの組織の地震が関係する計画やマニュアルの見直し策をグループワークで検討する。

受講要件：特になし

科目名：防災実務実習（2018/01/17（水）） 開催日は仮予定

担当教員名：岩田 孝仁

専門分野：防災政策，防災行政学

授業内容：

行政機関が実施する災害図上訓練等に、参加者あるいは評価者として参加する。その際、どのような訓練が行われ、どのような役割を果たしたのかなどに関する報告書の提出を求める。受入機関の都合により内容は変更される可能性がある。具体的な開催日・内容については、2017年10月以降にあらためて連絡する。

4. 3 修了研修シラバス(平成29年度)

担当教員名：生田 領野

専門分野：測地学，地震学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：東海地域における地殻変動からプレート境界のすべり挙動の推定

内容概略：国土地理院によって展開された GPS 観測網 GEONET を用い，地表の変形から地下のプレート境界の固着状態・すべり挙動のモニタリングを行う。

将来発生する海溝型地震の規模は，沈み込むプレートが陸側のプレートを一緒に引きずり込んだ量で規定される。この引きずり込みはプレート境界の摩擦物性により一様ではないことがわかっており，ずるずるとすべっている場所，時々すべる場所，普段は固着していて地震時に大きくすべる場所がある。東海地方で駿河トラフから沈み込んでいるフィリピン海プレートの境界上でこのようなすべりや固着の分布を知ることで，将来起こる東海・東南海地震で強い地震波を発生する場所（アスペリティ）を推定することができる。この分布は地震動のハザードマップ作成の際の基礎データとなりうる。本講座ではこの手法を習得し，プレート境界面上でのすべり挙動のマッピングを行う。

テーマ(2)：人工震源装置を用いたプレート境界付近の地震波伝搬特性のモニタリング

内容概要：人工震源装置による地震波データを用いて，東海地方における地震波伝搬特性の時間変化をモニタリングする。

地震は地下でせん断応力が断層の摩擦強度を超えた時に開始する。よって，地下で地震が起こる場所の応力を計測することは地震学の悲願である。ところが地震が発生する数 km から 10 数 km の深さの応力を計器で直接計測することは技術的に不可能である。

そこで岩石中を伝わる地震波を利用し，その速度を計測することで間接的に応力状態を知るための技術開発が行われている。この目的で，名古屋大・静岡大・気象研の共同研究により東海地方に3台の人工震源装置が設置され，定常的に信号を出し続けている。これらの震源装置から発生した地震波を地震計を用いて記録し，東海地方下の地震波速度の変化をモニタリングして地震や断層のすべりなどの地殻活動と関連付ける。

その他，GPS データ解析，地震の波形解析，地震活動の解析など，地震学，測地学一般のテーマについて，ご相談可能。

担当教員名：岩崎 一孝

専門分野：地理学，気候学，地理情報システム（GIS）研究

指導可能なテーマと内容：

テーマ：気象災害や地震災害の地域特性の研究，地域災害史の研究，GIS を用いた防災情報解析。

内容：各研究テーマとも，内容については受講生の研究希望分野に合わせて，柔軟に対応していく予定です。

担当教員名：牛山 素行

専門分野：自然災害科学，災害情報学

指導可能なテーマと内容：

当研究室では，豪雨災害・津波災害を主な対象とし，人的被害の発生状況，災害情報への認識や利活用実態の把握，災害時の避難行動の検証などの研究を行っている。本講座全体の主担当者であり，特に行政機関職員，指定公共機関や報道機関の関係者を積極的に受け入れている。また，1ヶ月1回程度の間隔で実施されるゼミには，受講生の他，修了生をはじめ，防災関係研究者などのゲストも参加し，活発な討論が行われている。

最近の受講生らが関わった主な学会発表・論文のテーマ例は以下の通りである。

- ・タイムスタンプデータを用いた津波到達時の陸前高田市の状況推定
- ・実災害記録に基づく豪雨災害対応行政危機管理演習構築の試み
- ・静岡県気象災害小史からみる大雨災害の特徴
- ・市町村における豪雨防災情報活用の課題
- ・2010年9月8日静岡県小山町豪雨災害における避難行動の検証
- ・静岡県における防災情報共有システム利用者の意見集約手法の開発
- ・テレビ放送における防災情報の伝達状況に関する調査
- ・内水氾濫に対して設定した避難勧告発令基準の検証
- ・避難猶予時間に着目した三陸海岸における東日本大震災津波犠牲者の特徴
- ・豪雨時の行政機関への電話通報を基にした災害危険度の推定
- ・静岡県における防災行政組織の変遷
- ・防災気象情報に対する市町村防災担当者の認識
- ・土砂災害に対する避難勧告等の実用的な基準の検討
- ・2004～2014年の豪雨災害による人的被害の原因分析
- ・記録的短時間大雨情報と災害との関係について
- ・災害情報面から見た近年の市区町村防災体制の変化について
- ・2014年8月広島豪雨災害時の犠牲者の特徴
- ・電話通報数に基づく災害危険度の推定－2014年広島豪雨災害事例による検証－
- ・1951～2014年の台風の強さと死者・行方不明者の関係
- ・登録型防災メールの活用状況に関する調査
- ・県域FM局における災害時の放送内容に関する事例調査
- ・東日本大震災後の沿岸部住民における津波と洪水の危険度認知
- ・沼津市における東日本大震災前後の人口変化
- ・2014年末時点の資料にもとづく東日本大震災死者・行方不明者の特徴
- ・平成27年9月関東・東北豪雨による犠牲者の特徴

当研究室の研究活動については，<http://disaster-i.net/>に詳述しているので，応募に当たっては必ず確認すること。当研究室では，テーマを与えて，手取り足取り指導するこ

とはない。各自で調査研究計画を立てて、担当教員と相談しつつ進めること。なお、複数の応募者があった場合、すでに共同研究・共同調査を実施している行政機関・民間企業の関係者を優先して受け入れるものとする。

担当教員名：北村 晃寿

専門分野：津波堆積物，古地震の研究

指導可能なテーマと内容：

テーマ：津波堆積物及び地層に残された古地震記録の調査

主に静岡・清水・焼津・沼津平野で、ボーリングコア調査から得た地層記録を解析して、津波堆積物の分布と古地震に関わる情報を得ます。これらの調査から、同地域の地盤構造を高精度で解析することもでき、液状化マップの高精度化が可能となります。

担当教員名：木村 浩之

専門分野：地球微生物学

指導可能なテーマと内容：

テーマ：付加体の深部帯水層のメタンと微生物群集を利用した防災ステーションの創成に向けた基盤研究

内容概略：静岡県中西部は付加体と呼ばれる地質構造からなる。付加体は、海洋プレートが陸側プレートの下に沈み込む際に海底堆積物がはぎ取られて、陸側プレートの側面に付加してできた厚い堆積層である。付加体の堆積層には大量の有機物が含まれている。また、付加体の深部地下圏に生息する微生物群集によって、堆積層中の有機物が分解され、メタンが生成されている。

当研究室では、付加体の深部帯水層のメタンと深部地下水に含まれる微生物群集を利用した分散型エネルギー生産システムを開発中である。付加体が分布する西南日本の太平洋側の地域は東南海・南海地震の被害想定域に指定されている。よって、本エネルギー生産システムを地下水・ガス・電気を自家的に供給する“防災ステーション”として利用することも検討中である。最近の主な学会発表・論文のテーマは以下の通りである。

- ・付加体の深部地下圏に由来する嫌気性地下水と付随ガスの化学分析と地域特性
- ・付加体の深部地下圏にて生成されるメタンの起源を解明する研究
- ・付加体の地下圏微生物を利用した自立分散型エネルギー生産システムの開発など

担当教員名：小杉 素子

専門分野：社会心理学，リスクコミュニケーション

指導可能なテーマと内容：

自然災害のリスクや被害について、一般の人々の知識や感じ方，講じている対策などの内容を質問紙調査やインタビューで調べたり，新聞やHP・パンフレットなどに記載されて

いるリスク情報のわかりやすさやわかりにくい理由などをグループインタビューなどを行い、明らかにする手法やプロセスについて指導可能。テーマは、人々にとって身近な自然災害や技術であれば、だいたいのものは扱うことができる（逆に、一般の人々が見たことも聞いたこともないような先端技術や気象現象は扱うことが困難）。

質問紙やインタビューのデータは学生自身が収集する必要がある。また、集めたデータは統計的に分析するため、基本的な統計の理解があること、エクセル統計（あるいは何らかの統計ソフト）が使えることが望ましい。

教員名：小林 朋子

専門分野：学校心理学，学校臨床心理学

指導可能なテーマと内容：

当研究室では、小中学生および障がいのある子ども、そして家族や教師などの支援者に関する災害時の心のケアの研究を行っている。最近では、特に災害発生に備えた心への対策、レジリエンス（精神的回復力）に関する研究を行っている。

最近の論文は

- ・小中学生における「精神的回復力（レジリエンス）」の発達的变化とその支援に関する研究
- ・大切な人を亡くした子どもに対する教師のとまどいとその対応について
- ・災害 4 年後の教師の心理的影響について—中越大震災を経験した小中学校教員を対象として—
- ・多職種による災害後のこころのケアに関する研修会の効果について

他にも論文，著書，学会発表などがありますので，小林朋子研究室 HP (<http://tomokoba.mt-100.com/>) を参照してください。

なお，修了研修に関する指導の時間は，平日昼間(10～17 時の間)に，学部生や院生指導と一緒にゼミの場で行います。土日や平日の夜間の指導には一切対応できませんのであらかじめご了承ください。

担当教員名：小山 真人

専門分野：火山学，地質学，地震・火山防災，災害リスク評価

指導可能なテーマと内容：

テーマ：伊豆地域の自然災害史とジオパーク資源

内容概略：最近世界的に急速に広まりつつあるジオパークは、地域の地形・地質の形成史とそれに関わる人間社会の歴史や在り方すべてをテーマとした観光・教育活動を興し、それによって地域の振興と再生をめざすという壮大なプロジェクトである。ジオパークにおける教育やガイド養成カリキュラムには、必然的に地域特有の自然の営みや防災に関する知識の本質的部分が包含されるため、高い防災知識を備えた人材を多数育成することが可能である。伊豆半島では 2011 年 3 月に伊豆半島ジオパーク推進協議会が設立され、2012

年 9 月に日本ジオパークとしての公式認定を受けた。しかし、伊豆でのジオパーク資源としての自然形成史・災害史や、それらと地域社会との関わりなどの解明・整理はまだ立ち後れている。本研究では、伊豆半島内の特定地域において既存の地形・地質、災害史、自然との共生史の発掘や整理をおこない、ジオパークのための資源開発をおこなうとともに、それらの活用方法を実証的に考察する。なお、本研修は、原則として伊豆半島に在住または勤務する者を対象とする。

担当教員名：土屋 智

専門分野：山地水文学，土砂移動学

指導可能なテーマと内容：

テーマ(1)：過去の土砂災害事例の再現と精査

内容概略：台風や地震に伴って生じた古い時代の土砂災害を抽出し、現在の地形情報を用いて土砂災害の原因となった土砂移動現象を再現する。具体的には、古文書や市町村誌から災害記述を拾い出し、現在の地形情報をベースに土砂移動現象の規模と発生場を特定し、また災害規模を推定する。特定された発生場では、現地調査を行い、土砂移動が発生した範囲、移動土砂量、災害規模等を現地で照査し、その実態を明らかにする。

テーマ(2)：土砂移動現象の発生場に関する地形的な特徴の把握

内容概略：過去静岡県下で起きた斜面崩壊を対象に、発生場としての地形条件に着目し、どこで発生しやすいかといった観点でその特徴抽出を行う。崩壊の発生場所や被害状況などの基本情報は、治山、砂防の行政機関が記録する資料から特定する。地形的な特徴抽出には、国土地理院発行の基盤地図情報 10m メッシュ（一部 5m メッシュ）データを用い、崩壊諸元（崩壊幅、崩壊長、崩壊深、崩壊傾斜、発生標高、流動距離）と崩壊前の地形因子（断層やリニアメントの存在、谷・尾根の比高）を数量化し、崩壊発生場の地形的な特徴を抽出し、どのような場所で発生しやすいかを明らかにする。

担当教員名：橋本 岳

専門分野：画像計測工学，災害予兆検知

指導可能なテーマと内容：

テーマ：3次元画像計測技術の防災への応用に関する研究

内容概略：画像を用いた3次元計測について研究を行う。3次元計測は人間の両眼と同じように、複数のカメラにより撮影した画像から計測対象の3次元座標を計測する技術で、本研究室では特に高精度という特長を有している。

この技術の防災への応用として、土砂災害の予兆検知・建物の振動計測・都市建物や文化財の計測というテーマに取り組んでおり、実験を含めた演習を行う予定である。

また、純粋な自然科学系テーマではなく、上記以外でも、3次元画像計測を基礎としたテーマなら広く対応できる場合がある。

なお、コンピュータの操作・プログラミングの知識があると取り組み易いが、LabVIEWを

使うので比較的簡単に短時間でプログラムを作成できる。

担当教員名：原田 賢治

専門分野：津波工学，津波防災

指導可能なテーマと内容：

津波工学，津波防災をテーマとした修了研修の受け入れを予定している。具体的テーマについては必要に応じて受講者と相談し決定する。なお，e-mailでの連絡やOfficeソフト等の基本的な操作について，自分で操作可能であることを必須条件とする。

また，受講者には，主体的に修了研修のテーマに取り組むことが必要とされる。当研究室では，修了研修において調査・研究の作業を自ら行う事により，課題の背景となる問題構造の整理，課題解決に向けての科学的検討方法のレビュー・計画・試行，検討結果の論理的な整理・説明を自らが行える能力を身につける事を目指す。これらの能力は防災対策・施策の企画，立案，実施において必要となる能力と共通しており，修了研修において，自ら課題を定義し，自ら考え，自ら計画し，自ら検討を行う事でこれらの能力を身につけることを要求する。

これまでの修了研修において，学会発表したテーマを示す。

- ・ 掛川市が目指す海岸林強化事業における整備条件の検討について
- ・ 市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討
- ・ SNSを活用した津波等の歴史災害記録の情報共有手法の試行
- ・ 静岡県地震防災センターの現状分析と今後のあり方の検討
- ・ 「静岡県第4次地震被害想定」についてのQ&Aの作成と効果等について
- ・ ふじのくに防災士養成講座受講者の受講動機に認められた特徴
- ・ 被災後3年以降の企業による東日本大震災被災地支援について
- ・ 遠州灘海岸（五島海岸，篠原海岸）における海岸林の津波に対する効果について
- ・ 津波避難行動の改善に向けた住民意識の基礎調査
- ・ 静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波

また，現在想定しているテーマ案を示す。

テーマ(1)：地域における津波対策の課題分析

地域における津波対策の現状調査および課題を分析し，改善策の検討を行う。本テーマでは，特定の地域で津波対策について資料収集，現地調査，聞き取りなどの調査を行い，津波対策の現状を整理し，課題と改善策を具体的に検討する。

テーマ(2)：海岸樹林帯による津波減災効果の検討

海岸部の樹林帯は，津波を遅らせ，漂流物を捕捉し，エネルギーを減衰させ被害を軽減する効果を持つと考えられる。本テーマでは，津波に対する海岸樹林帯の効果や限界について現地調査や試験等により検討し，多重防御対策としての可能性について検討する。

担当教員名：藤井 基貴

専門分野：防災教育

指導可能なテーマと内容：

本研究室では災害時における判断能力の形成に資する防災教育，災害時要援護者に対する防災教育，およびその基盤となる哲学・倫理学テーマに関わる理論研究を進めている。最近の主な学会発表・論文のテーマ例は以下の通りである。

- ・防災教育と連携した道德教育の授業開発
- ・「防災道德」の取り組み
- ・特別支援学校における防災教育
- ・災害道德の教育 — 「防災道德」授業の実践と哲学教育への可能性—

なお，複数の応募者があった場合，すでに共同研究・共同調査を実施している教育機関・民間団体の関係者を優先して受け入れるものとする。

担当教員名：前田 恭伸

専門分野：リスクアナリシス

指導可能なテーマと内容：

テーマ：「震災から一週間」地域防災力の向上に関する研究

内容概略：自治体や企業において，地震災害の被災直後の対応については，検討が進み，防災訓練などに活かされている。だが，被災直後の対応をどのように復旧，復興につないでいくのか？たとえば被災から一週間の間どのようにして状況に対応するか，想定はできているであろうか？このテーマでは，災害弱者支援，自治体・企業の事業継続等の観点から，被災から一週間～一ヶ月での対応について，シミュレーション／ワークショップ／事例調査等から研究を進める。

担当教員名：増澤 武弘

専門分野：植物生態学，植生学，環境科学

指導可能なテーマと内容：

日本列島の海岸線には，防潮林・砂防林として人工林が植栽されている。ここでは，海岸における人工林と潜在植生の構造と機能を扱う。

- ・針葉樹人工林の構造
- ・針葉樹人工林の機能
- ・潜在自然植生の構造
- ・潜在自然植生の機能
- ・海岸線における潜在自然植生と災害

担当教員名：増田 俊明

専門分野：地球科学，構造岩石学

指導可能なテーマと内容：

テーマ：風化による岩石の硬さ変化の定量化

岩石が風化すると硬さが変化する。その硬さの変化を超微小硬度計により精密に計測し、風化による変質を定量的に捉えようというテーマである。多少の力学と統計の知識が必要となる。具体的内容については個別に相談に応じる。

5. 受講志願書の記入方法

受講志願書は、次ページの書式に従ってワープロ等で作成する。手書き文書は認めない。本文は 10 ポイント程度の明朝体で入力し、罫線・飾り文字・ルビなどは用いない。なお、記入用の Word ファイルを、当事業のホームページに用意してあるので、これを利用されたい。

ホームページアドレス <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/fellow/>

各事項の記入上の注意は以下のとおり。

- 氏名(ふりがな):漢字で氏名を記入し、続けて(カッコ)書きで読みをひらがなで記入。外国人の場合は、英語での記入のみで可。
 - 生年月日:西暦で記入
 - 勤務先:勤務先の役所名, 会社名, 学校名, 団体名等を, 部署まで記入する。
 - 住所:勤務先及び自宅の住所, 電話番号, メールアドレスを記入する。勤務先・自宅のいずれか一方のみの記入でも差し支えない。選考過程・講座受講中の諸連絡や個別指導は, すべて電子メールによって行うので, メールアドレスは, 応募者が日常的に使用している, 個人用アドレスを必ず記入すること。
 - 学歴:高等学校卒業以降の学歴を, 年月とともに記入する。
 - 職歴:勤務先などの職歴を, 年月とともに記入する。
 - 免許・資格:防災に関係すると思われる免許, 資格があれば記入する。記入した免許・資格に関する証明書等があればそのコピーを別紙で添付すること。
 - 従事した防災関連業務の内容:現在従事している防災関連業務の内容を, 10 行以内で簡潔に説明する。過去に従事した, 又は今後従事することが予定されている業務でも良い。大学院生の場合は, これまでに行った防災関連の研究内容を説明する。
 - 修了研修の指導を希望する教員名:「修了研修シラバス」を参考にして, 指導を希望する教員名を記入する。詳細は後述する。
 - 修了研修の希望テーマ及び研究計画:「修了研修シラバス」を参考に, 取り組みたいテーマと, そのテーマに関心を持った理由, 自分としての研究計画について 20 行程度で記述する。
- 修了研修担当教員の選択方法について**
- 修了研修の指導を希望する教員は, 「修了研修シラバス」を参考にして, 2~4 名程度を記入する。
 - 必ず「**修了研修シラバス**」(講義・実習ではない)に記載されている教員名を記入すること。講義・実習のみを担当している教員名(5 ページ「担当内容」に A のみ記載されている教員)を書いても無効である。
 - 下記「**グループ①(社会科学系)**」の中からは 1 名しか選択できない。「**グループ②(自然科学系)**」からは複数名を選択して差し支えない。
 - 第 1 希望として「**グループ①**」の教員を選択した場合は, 第 2 希望以降は必ず「グル

ープ②」から希望教員を選択すること。「グループ②」の教員を第1希望とした場合は、第2希望以降に特に制約はないが、「グループ①」からは1名しか選択できない。

- 本講座主担当者の牛山素行教員*のみは、志望内容により5名程度までの受入が可能である。他の教員は、原則として1名程度の受入となる。
- 受入教員は、各教員の専門と、応募者の志望内容などをもとに選考する。希望通りとならない場合もあることを理解すること。特に、例年「グループ①」の教員は希望者が多く、受入が困難となる場合があるのでよく検討すること。

グループ①

岩崎一孝，小杉素子，小林朋子，藤井基貴，前田恭伸

グループ②

生田領野，牛山素行*，北村晃寿，木村浩之，小山真人，土屋智，橋本岳，原田賢治，増澤武弘，増田俊明

● 【記入例】

平成**年**月**日

平成**年度 受講志願書
「ふじのくに防災フェロー養成講座」

静岡大学防災総合センター長 殿

「ふじのくに防災フェロー養成講座」の受講を希望いたします。

氏名(ふりがな) 静岡 太郎 (しずおか たろう)

生年月日 1980年2月1日

勤務先 株式会社ぼうさい 技術部

住所(勤務先)

住 所 静岡市駿河区大谷***
電話番号 054-238-****
メール taro@shizuoka.**.jp

住所(自宅)

住 所 静岡市葵区追手町***
電話番号 054-****-****
メール

学歴(高校卒業以降)

****年3月 静岡県立〇×高等学校卒業
****年3月 静岡大学××学部卒業

職歴

****年4月 株式会社ぼうさい

免許・資格

静岡県防災士, 土木学会認定1級技術者

従事した防災関連業務の内容(10行以内)

株式会社ぼうさい技術部に勤務し, 主に河川, 砂防関係構造物の設計に従事している.
最近では, 〇×川の河川改修事業に当たり, ××の業務に従事した.

修了研修の指導を希望する教員名

第1希望: 牛山素行
第2希望: 原田賢治
第3希望:
第4希望:

グループ①から選択可能な教員は1名のみ。第1希望をグループ①の教員とした場合, 第2希望以降は必ずグループ②から選択。

修了研修の希望テーマ及び研究計画(20行以内)

私は・・・

平成 年 月 日

平成29年度 受講志願書
「ふじのくに防災フェロー養成講座」

静岡大学防災総合センター長 殿

「ふじのくに防災フェロー養成講座」の受講を希望いたします。

氏名(ふりがな)

生年月日

勤務先

住所(勤務先)

住 所

電話番号

メール

住所(自宅)

住 所

電話番号

メール

学歴(高校卒業以降)

年 月

職歴

年 月

免許・資格

従事した防災関連業務の内容(10行以内)

修了研修の指導を希望する教員名

第1希望：

第2希望：

第3希望：

第4希望：

修了研修の希望テーマ及び研究計画(20行以内)

